

# クルアーンで記述されるイエスの称号（前半）「メシア」と「奇跡」

説明：

クルアーンの中でのイエスの名前、称号、そしてその描写。その1：イスラーム、そしてユダヤ、キリスト教におけるメシアの概念と、クルアーンの中で神がイエスに与えた「奇跡」。

より IslamReligion.com

掲載日時 17 Dec 2012 - 編集日時 08 Mar 2020

カテゴリ：[記事](#) > [比較宗教](#) > [イエス](#) [キリスト](#)

イスラームはキリスト教とともに、イエスを認めている唯一の世界宗教です。イエス抜きには、イスラーム教徒の信仰を語ることはできません。預言者ムハンマドはこう言いました。



「もしあなたが、並ぶ者のない神以外に崇拜されるべき者は無く、ムハンマドが彼のしもべであり預言者であると証言し、またイエスが神のしもべで預言者であり、彼がマリアと神からの魂（天使ガブリエル）に与えた神の言葉であると証言し、楽園と地獄の存在が真実であると証言するならば、神は、たとえあなたの行いが少ししかなくても、その行いとともにあなたを楽園へと受け入れるでしょう。」

つまり、イエスを信じることなしには、神の楽園に入ることはできないのです。その他の預言者たちと同じように、イスラーム教徒は彼の名前のあとに「アライヒッサラーム」と言います。これは「彼に平安がありますように。[2](#)

」という意味です。イエスが「あなたに平安を。私からの平安をあなたに。[3](#)」と聖書の中で述べているにも関わらず、キリスト教徒は「キリスト」という称号を名前の一部として使う以外には、特に榮譽ある称号を彼に対して使いません。これはキリスト教徒が、彼のために祈るのではなく、彼に祈るからかもしれないが、このことからイスラーム教徒が、キリスト教徒と考え方は違ったとしても、イエスに対して多大な尊敬を払っているということは分かるでしょう。

クルアーンはイスラームにおける聖典であり、イエスはその中の15の章、90節以上の中で言及されています。また、クルアーンの3章はイエスを由来とした題名がつけられています。第3章の「イムラーン家」はマリアの父の名前から、第5章の「食卓」はおそらく「最後の晩餐」から、そして19章の名は「マリア」です。

## クルアーンの中での彼の名

アラビア語ではイエスは「イーサー」として知られています。クルアーンが「イーサー」と呼んでいる25箇所のうち16箇所では、彼は「マリアの息子（イブン マルヤム）」と呼ばれています。彼には父親がいなかったため、母親の名をとって名付けられたのです[4](#)。

## クルアーンの中でのイエスを描写する称号

### (1) メシア (救世主)

イエスが現れる前までは、救世主の出現は伝統的ユダヤ教の中で基本的な信仰でした。ユダヤ教徒の最低限の信仰とされるマイモニダスの信仰13か条のひとつでした<sup>5</sup>。日に三回捧げられるシェモナエスレイの祈りの中では<sup>6</sup>、ダビデの血筋から来るユダヤ人の王で、黄金時代を再建する救世主への祈りがあります。ヘブライ語では「選ばれし者、聖油を塗られた者」という意味があります。旧約聖書の中で、神の子としてではなく「人の子(ダニエル書7章13節<sup>7</sup>)」と呼ばれ、彼が人間であることを強調されているのは興味深い事実です。

メシアという観念はキリスト教学の中で中心的な思想です。聖書によると、イエスはユダヤ人待望の救世主でありながら、(ヨハネ4章25〜26節<sup>8</sup>)彼らに拒否されたとしています。そこから、キリスト教徒はギリシア語で救世主という意味であるキリストという称号を使い始めました。また彼らはキリストは神の子であると信じています。

クルアーンはユダヤ教徒、キリスト教徒の過剰な部分を正しています。ユダヤ教徒がメシアが人間であるということを知っている事に対しては正しいとしていますが、イエスを否定したことは「不信仰」と同等としています。

“かれらは不信心のため、またマリアに対する激しい中傷の言葉のために、「わたしたちはアッラーの使徒、マリアの子メシア、イエスを殺したぞ」という言葉のために(心を封じられた)。だがかれらがかれを殺したのでもなく、またかれを十字架にかけたのでもない。”(クルアーン4章156〜157節)

その一方で、クルアーンはイエスがメシアであるというキリスト教徒の主張は認めています、彼らがメシアが神の子であると主張するのは異端だとしています。

“「アッラーこそは、マリアの子メシアである。」と言う者は、確かに不信心者である。”(クルアーン5章72節)

クルアーンによると、

“マリアの子メシアは、一人の使徒に過ぎない。かれの以前にも使徒たちがあって、逝ったのである。”(クルアーン5章75節)

さらにクルアーンでは、メシアが他の預言者たちのように、「本当の神」を信仰するように説いていたとしています。

“

しかもメシアは言ったのである。「イスラエルの子孫よ、わたしの主であり、あなたがたの主であられるアッラーに仕えなさい。」

”（クルアーン5章72節）

クルアーンでは9回、イエスのことをメシア（アル＝マスィーフ）と言及しています<sup>9</sup>。イスラームの辞書編集学者の説明によれば、イエスは盲目の者を治癒したり、（クルアーン3章43節、マルコによる福音書6章13節、ヤコブの手紙5章14節）病人に手を差し伸べていたからだとされています。

(2)

クルアーンではイエスを「アーヤ」、つまり神兆としています。クルアーンの専門用語で奇跡とは、神が神聖な力と因果関係に制限されない能力を示すための神兆のことです。この意味でイエスが処女から誕生したことは、神が望みのことを行う力を有していることを示すひとつの奇跡なのであり、つまりイエスはイスラエルの人々だけではなく全世界への神兆なのです。

“ またわれは、マリアの子とその母を印となし...”（クルアーン23章50節）

“ ...それでかれ（息子）を入びとへの印となし...”（クルアーン19章21節）

“ かの女とその子を万有のための印とした。 ”（クルアーン21章19節）

さらにクルアーンはイエスの再来も、審判の日が近いということの知らせだとしています。

“

本当にかれ（イエス）は、（審判の）時の印の一つである。だからその（時）に就いて疑ってはならない。そしてわれに従え。これこそ、正しい道である。 ”（クルアーン43章61節）

---

Endnotes:

[2](#)

これは直訳です。博識の学者はこれを「神が彼をすべての悪から守りますように」と訳しています。

### [3](#) ヨハネによる福音書 1 4 章 2 7 節

#### [4](#)

聖書もイエスのことをマリアの息子と呼んでいます（マルコによる福音書6章3節）：「大工の息子ではなくマリアの息子である。」

#### [5](#)

（12節）私は救世主の出現をかたく信じています。彼は遅れてくるかもしれないが、毎日私は彼の出現を望んでいます（ユダヤ教百科）。

#### [6](#)

「私たちに理解を与えてください。ああ、永久不滅の我らが神よ。あなたの道を知る為に、私たちの心を割礼し、あなたを畏れるようにしてください。罪が赦されるように、私たちを赦してください。私たちが体の痛みをとり、あなたの土地の肥沃さで私たちを肥えさせてください。世界の四方に散らばった私たちを集められ、あなたの知識に背いたものはあなたから審判を受けます。悪者たちからあなたは手を離されます。しかし、あなたの信仰の者はあなたの街の建物で、あなたの神殿の再建の中で、あなたのしもべであるダビデのつのが生える中で、イエッセの息子、あなたのメシアが光を灯す中で喜びます。私たちが願う前にあなたは答えられる。あなたに祝福あれ、ああ永久不滅の主よ、あなたは祈りをお聞きになる。」（ユダヤ教百科）

#### [7](#)

夜中に私は見たのである。人の子が天の雲にとともに、太古の日々に、彼は近づいてきたのである。

#### [8](#)

（6節）その女性は言った。「私はメシア（キリスト）が来ると知っています。彼が現れるとき、彼が私たちに全て説明してくれるでしょう。（7節）そこでイエスが言いました。『今話している私こそがその彼です。』」

### [9](#) クルアーン3章45節、4章157節、171節、172節、5章17節、72節、75節、9章30節、31節。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/230>

Copyright © 2006-2015 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.